

福島第一原子力発電所 2号機原子炉建屋排気設備における空气中放射性物質の核種分析結果

(データ集約 : 6/26)

採取場所	2号機原子炉建屋排気設備 (排気フィルタ入口)		2号機原子炉建屋排気設備 (排気フィルタ出口)		告示濃度限度* (Bq/cm <sup>3</sup> )
	2017年6月1日 11時01分～12時57分		2017年6月1日 10時38分～12時38分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	2.6E-07	0.00	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	2.1E-06	0.00	ND	-	3E-03

\* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度  
(別表第2第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度)

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

. E- とは、 . × 10<sup>-</sup> と同じ意味である。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

2号機原子炉建屋排気設備(排気フィルタ入口)における検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約1E-7Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約1E-7Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約8E-8Bq/cm<sup>3</sup>。

粒子状のI-131が約1E-7Bq/cm<sup>3</sup>。

2号機原子炉建屋排気設備(排気フィルタ出口)における検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約9E-8Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約1E-7Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約1E-7Bq/cm<sup>3</sup>。

粒子状のI-131が約1E-7Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約1E-7Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約9E-8Bq/cm<sup>3</sup>。